

北海道北見緑陵高等学校 1年

山崎 裕香

「風化させないために私ができること」

今、横田めぐみさんを含め北朝鮮に拉致された人達は、どこで何を思っているのだろうか。

めぐみさんが十三歳で拉致された時、私はまだ生まれていませんでした。このことについて知っていたのは「横田めぐみさんという人が拉致された」ということだけで、拉致という言葉の意味もほとんど知らず、詳しく知ろうともしてきませんでした。そして今回、この『めぐみ』というアニメを見て、はじめて拉致問題の現状や残酷さを知りました。

めぐみさんが拉致されてから四十年が経過し、拉致被害者本人も、その家族も、やはり一番は互いに会えない辛さを感じていると思います。しかしそれ以上に、世間に忘れられる不安、解決が遠のいていく不安に苦しんでいるのではないかと思いました。北朝鮮に拉致された人達がいること、今も尚、北朝鮮で助けを求め続けていることを私達は、決して忘れてはいけないうし、何よりもこのことを知らなければいけないと思いました。

拉致問題解決のための第一歩は、風化させないことだと私は思います。そのためには、まずたくさんの人に拉致問題について知ってもらう必要があります。しかし、人間は、時間が経てばたくさんを忘れてしまいますし、次から次へと起こる事件にニュースも切り替わっていきます。だからこそ、決して忘れてはいけないう問題については、政府とマスメディアが協力し、取り上げるべきだと思います。政府は世論に敏感です。ならば、私達がこのことに関心を持っていること、拉致問題の解決を望んでいることを政府に届けなければなりません。北方領土のニュースは良く目にします。それは、国民の関心があるからだだと思います。

私がアニメを見てから拉致問題についての詳細を知ったように、今の高校生は、事件のことは知っていても、詳細を知らないという人がたくさんいるのではないかと思います。今回見たこの『めぐみ』というアニメを、もっともっとたくさんの人にってもらい、理解を深めて欲しいと思いました。そのためにも、全国の小・中・高の授業で取り扱い、現状を知ってほしいです。私自身も、このことをたくさんの人に紹介していきたいです。先日、SNSで「『めぐみ』を見たんだ」と書いただけで、「何それ？」という反応がありました。より多くの人に伝えるためには、ユーチューブやSNSの活用を、政府も試みて良いのではないかと思います。

一人の人間にできることは限られています。その中で自分にできることは、このことを忘れないこと、そして伝えていくことだと思っています。私がこのことを知れたのも、このコンクールがあったからです。こうした取り組みが続くことを心から望みます。